

3. 宝飾品に関する商品知識

グレードの高い商品情報をお客様に提供することは、セールス活動の一部であり、〇〇〇スタッフの必須条件でもあります。プロとして知っておかなければならない基礎的な知識を〇〇〇商品に関わりのある素材を中心に紹介しますので実践の場面で活用できるよう勉強しておきましょう。

● 宝石の条件

地球上には何種類もの鉱物が存在し、そのごく一部が「宝石」と呼ばれています。「宝石」には以下の5つの条件があります。

- 美しいこと ● 耐久性に優れていること ● 稀少性があること
- 需要性があること ● 伝統的に使用されていること

● 宝石の種類と性質

1 ▶ 宝石の分類と名称

宝石は、一部の例外的な有機質の宝石（パール、珊瑚、べっ甲など）を除き全て無機質の鉱物です。この無機質の宝石は、化学成分や結晶構造が同一でも産地や混合物によって色合い、透明度などが異なる場合が多く、細分類され名称がつけられています。この名称を「バラエティ」といいます。

(例)

鉱物の種類	バラエティ
・ ペリル	・ エメラルド (緑色) ・ アクアマリン (淡青色)

また種類とバラエティの他に、類似した化学成分で同一の結晶構造を持つ宝石の場合は、「族名（グループ）」で呼ばれます。例えばガーネットはアルマンダイト・ガーネット、ロードライト・ガーネット、スッペッサタイト・ガーネット、グロッシュラーライト・ガーネット、アンドラダイト・ガーネットなどの鉱物グループ名を総称して「ガーネット」と呼ばれます。宝石には鉱物名や俗称など様々な呼称があることを認識しておきます。

2 ▶ 貴石と半貴石

宝石の分類の一つに、「貴石」と「半貴石」があります。この分類は概念的なもので各々を定義づけることは難しいが「硬度」である程度の線引きをすることが可能であると言われます。基準になる硬度は7.5度で、

7.5度以上を貴石、逆に7.5度未満が半貴石として扱われています。

〇〇〇の商品には半貴石が多く使われており、各々の特性を把握しておくことも重要です。

(1) 貴石について

- ・ 硬度が高く、耐久性のある素材。高品質の石には、ファセットカット（面をつけるカット）を使用することが多く、屈折率を生かし貴石特有の美しさ、輝きを引き出す。
- ・ 〇〇〇では貴石の中で「ダイヤモンド」「サファイヤ」「ルビー」「エメラルド」の4大貴石を主に使用している。その他「キャッツアイ」「ひすい」「アレキサンドライト」なども貴石に含まれるが、これらの素材は〇〇〇ではほとんど使用されないことがない。

(2) 半貴石について

- ・ 硬度が低く傷つきやすい素材。光りすぎないものは日常感覚の宝飾品として気軽に受け入れやすくコーディネート幅も広い。
- ・ 〇〇〇では貴石以外の素材を半貴石として捉えている。〇〇〇でよく使用する素材は「グリーンアゲート」「クリソプリーズ」「ホワイトコーラル」「ピンクコーラル」「ブルーカルセドニー」「オニキス」「黒蝶貝」「白蝶貝」「ウッド」「ヘマタイト」などである。但し、ウッド、パール、ヘマタイト（金属）など一般的に半貴石として分類できない素材もあり、あくまでも〇〇〇独自の分類であることを承知しておくこと。

【宝石の硬度（モース硬度表）】

硬度	宝石名	硬度	宝石名
10	ダイヤモンド	5	オパール、トルコ石 ラピスラズリ
9	ルビー、サファイア	4	フローライト
8	キャッツアイ、トパーズ アレキサンドライト	3	コーラル、パール
7	エメラルド、クオーツ アクアマリン、ひすい カルセドニー	2	琥珀
6	ネフライト、ヘマタイト	1	滑石

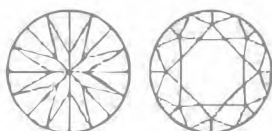
●〇〇〇商品のカットについて

〇〇〇の製作ポリシーに基づいた商品の特長とカットの関係を覚えておきましょう。

- (1) 貴石は素材の美しさと輝きを引きだすためにファセットカット（面をつけるカット）を主に使用する。
- (2) サファイヤ、ルビー、エメラルドなどのカラーストーンは石の色に深みと奥行きをだし、暖かいイメージをつくるダブルカボションカ

- ット（山型に丸くみがく）を使用することもある。
- (3) これら2種類（ファセット&カボション）のカットを使い分けることによって〇〇〇のデザイン世界を広げている。
- (4) メレダイヤは通常よりカット面を多くとり、より輝きを増すよう工夫している。
- (5) 半貴石は光をあまり透さないものが多いのでファセットカットを使用せずダブルカボションカットを使用する。また「うねり」などの細工やデザインセッティングをほどこし、ボリューム感のある宝飾品に仕上げているものもある。

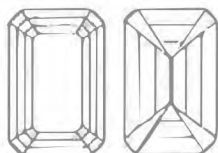
ファセットカット



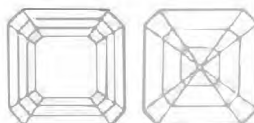
ラウンドブリリアントカット



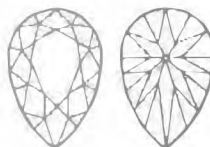
オールドマインカット



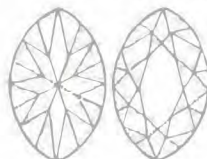
エメラルドカット



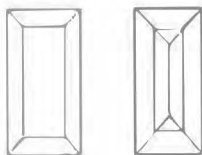
スクエアカット



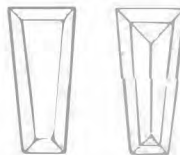
ペアシェイプカット



マーキースカット



バゲット



テーパードバゲット

カボションカット



シングル
カボションカット



レンティル
カボションカット



ダブル
カボションカット

● 宝石に関する基礎知識

〇〇〇商品の素材を中心に各々の宝石に関する基礎的な知識を覚えておきましょう。

(1) ダイヤモンド (Diamond/金剛石/産地/ソ連、南アフリカ、オーストラリア他)

- ・ 4月の誕生石で清浄無垢、純粋を象徴する。語源はラテン語で「征服し難い」の意味で古代から中世にかけて戦場に向かう騎士の護身符として使われていた。
- ・ ダイヤモンドの硬度は10。地球上で最も硬い結晶構造を持った物質である。古代、硬い石として珍重されたダイヤモンドが、宝石として価値を生み出すためには研磨される必要がある。「ダイヤはダイヤ

やでみがく」という研磨の技術が開発されたのは15世紀。ブリリアントカット(16面体のオールドブリリアント)の開発は17世紀である。現在の主流となっているカット(58面体)はアメリカンブリリアントと呼ばれ1865年に完成した。

- ・ 17～18世紀のヨーロッパ宮廷文化の最盛期には王侯貴族は富と権力の象徴として競ってダイヤを身につけた。現在、ダイヤの最大輸入国はアメリカ、次いで日本だが、日本で一般庶民が目にするのは明治以降である。
- ・ ダイヤモンドの稀少性は、土砂中の1億分の1の確立で発見される原石の中でも宝石として価値があるのはわずか10%というところにある。
- ・ ダイヤモンドの価値は「4C」の基準によって決まる。

[CARAT (カラット=重量)]

- ・ 重さの単位でサイズを表示

EX. 1カラット (ct)=0.2gと決められている。

大きさの目安 0.5カラット=φ5.15mm

1カラット=φ6.5mm

1.5カラット=φ7.4mm

2カラット=φ8.2mm

(φ:直径)

[CLARITY (クラリティ=透明度)]

- ・ ダイヤモンドは天然石のため、内包物(亀裂や他の結晶の固まり)



などを大きさ、性質、存在、場所、数の5つの要素から判定し、グレードを決める。

FL (=Flawless) 外部、内部とも無キズ

IF (=Internally Flawless) 内部無キズで外部にわずかなキズ

VVS (=VeryVery Slightly Included) ごくごくわずかな内包物

VS (=Very Slightly Included) ごくわずかな内包物

SI (=Slightly Included) わずかな内包物

I (=Imperfect) 宝石として使用できる最低のレベル

※ VVS～Iはランクをさらに細分化している。いずれも番号が若いほどクラリティが高い。

VVS-1、2/VVS-1、2/SI-1、2/I-1、2、3

〔COLOR (カラー=色)〕

- ・無色透明な色に近いほど評価は高く、黄色味を帯びて行くほど評価は下がる。最高「D」(=ダイヤモンドのD)からZまでアルファベット順で表す。

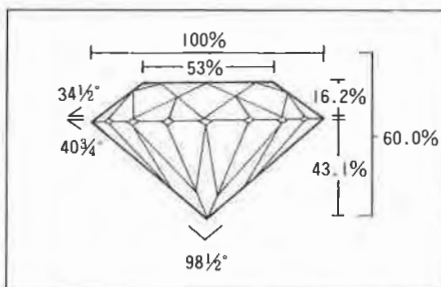
D～F=無色、G～I=わずかな黄色味、J～L=少し分かる黄色味、

M～N=明らかに分かる黄色味、O～Z=はっきりとした黄色

- ・「Z」よりも濃い黄色はファンシーイエローダイヤモンドと呼ばれ、逆にカラーダイヤモンドとして尊ばれる。中でも、特に美しいものはカナリーダイヤモンドと呼ばれる。
- ・その他に様々な色を持つ「ファンシー・カラー・ダイヤモンド」には、ドレスデン(グリーン)、ホープ(サファイアブルー)、ティファニー(イエロー)などの有名な石がある。
- ・カットされたダイヤモンドの中で世界最大のものはカリナンダイヤモンド。516.5ctのペアシェープ形ブリリアントカットでイギリスの王室の王笏にセットされている。

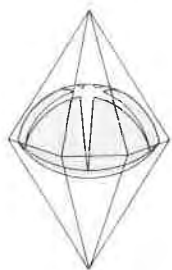
〔CUT (カット)〕

- ・光の屈折を最も効率的に生かし、美しい輝きを生み出すプロポーションと仕上げの美しさが評価される。ダイヤモンドは58面体からなるブリリアントカットが

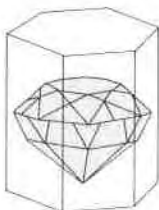


最高の輝き、美しさを発揮するといわれている。

- ・ダイヤモンド1個に対してグレード(4C)を証明したものを鑑定書といい、ダイヤモンドのみに対して発行される。
- ・ダイヤモンドを天然石か合成石かイミテーションかを分析し、その結果を記載した証明書を鑑別書という。



スタールビー、
サファイヤのカット



ルビー、サファイヤ

(2) サファイア (Sapphire/青玉・産地/ビルマ、インド(カシミール)、スリランカ、オーストラリア他)

- ・ 9月の誕生石で誠実、慈愛を象徴する。語源はラテン語で「青」の意味で、ペルシャ時代は「不変・誠実」のシンボルとして、古代ローマ以降は「眼病に効く」とされた。また12世紀以降のヨーロッパでは「聖職者の指輪」としてよく使われていた。現在では「魂の宝石」といわれ、身につけていると恨んだり嫉妬されたりされず、神の恵みが得られるといわれている。
- ・ サファイアの硬度は9。ルビーと同様酸化アルミニウムが結晶したコランダム(鋼玉石)である。無色の酸化アルミニウムの結晶に微量に他の成分が含まれると色が変わる。サファイアの青色は酸化鉄とチタンによる。
- ・ ルビー以外のコランダムの宝石はすべて「サファイア」と総称される。ブルー以外の色をファンシーサファイアと呼び、イエローサファイア(黄色)、ピンクサファイア(淡いピンク色) パパラチア(オレンジ系)などがある。
- ・ サファイアの色は産地によって微妙に異なっている。カシミール産のサファイアはカシミールブルー(矢車菊の青)で、色、質共に最高と言われている。次いで透明度はカシミール産より高いビルマ産のロイヤルブルー。スリランカ産ではかわせみブルーが最高で、カシミール産に劣らない品質を誇る。
- ・ サファイアの結晶は大きく数カラットの石も珍しくない。世界最大はオーストラリアで発見された1958ctのサファイア。
- ・ サファイアにはスター効果を持つものがあり、光軸に直角に面をカボションカットすると内包物の反射により六条の線が浮かび上がってくる。六条の線が石の中心から周囲まで切れずに走っているものは上質で高価とされている。アメリカに「インドの星」と名付けられた563ctのスターサファイアがある。

(3) ルビー (Ruby/紅玉・産地/ビルマ、スリランカ他)

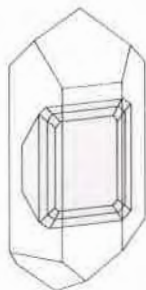
- ・ 7月の誕生石で情熱・不滅を象徴する。語源はラテン語で「赤」の意味。古代インド人は「炎の宝石」と呼び旧約聖書には不老長寿、護身符として効果があると記されている。またルビーは蛍光反応が強く、夏の強い日差しを受けると鮮やかな赤色蛍光を発するため「夏の宝石」と言われている。
- ・ ルビーの硬度は9。ダイヤモンドに次ぐ硬さでサファイアと同様コランダム「鋼玉石」に属す。
- ・ ルビーの赤は鉱物に含まれる微量の酸化クロムによるもの。ルビーに似た天然石には「スピネル」がある。
- ・ ルビーの色は、紫色を帯びた淡い赤から暗赤色までと幅が広い。最高の色はビジヨンブラッド(=鳩の血)といい、透明度の高い鮮明な真紅で、

主にビルマで産出される。ビルマは赤色をだす酸化クロムの含有が多く、純度が高いため、色、質共に最高のルビーの産地として有名である。

- ・ ルビーはサファイアに比べ産出量も少なく、大きい結晶も極めて少ないため稀少性が高い。5 ct以上のものはまず産出されない。1 ct以上のものはダイヤモンド、エメラルドより稀少性が高い。
- ・ ルビーにはサファイアと同様のスター効果を持つものがあり、スタールビーと呼ばれビルマ、セイロン産が多い。

(4) エメラルド (Emerald／翠玉・地／コロンビア、ブラジル、ソ連他)

- ・ 5月の誕生石で幸福・愛情・平和を象徴する。語源はペルシャ語で中世までは「緑の鉱物」を意味していた。エメラルドの歴史は古くBC 4000年のバビロン宝石市場ではすでに取引が行われていたとも言われている。また、クレオパトラが愛用し、BC 2000年頃女王所有のクレオパトラ鉱山で採掘されていたという事実もある。
- ・ 古代ローマでは、エメラルドを見ることにより目の疲れがいやされるとして、中世から17世紀にかけては安産・眼病など健康の護符として尊ばれた。
- ・ エメラルドの硬度は7.5～8。ベリリウムとアルミニウムが結晶したベリル（緑柱石）に属する。ベリルにはエメラルドの他アクアマリン（海水青色）ヘリオドール（＝ゴールデン・ベリル、黄色）などがある。
- ・ エメラルドの緑色は微量の酸化クロムの鉄分によるものである。同じ緑色のベリルでも酸化クロムを含有しない石はグリーンベリル（淡緑色）と呼ぶ。またエメラルドは2つの屈折率を持ちオリエンテーション（石取りの方向）によって色味が異なる。特に透明度が高くビロード質や照りを感じるものが評価される。
- ・ エメラルドは内包物が多く衝撃により割れることもあり、硬度が高い割には強度がなく取り扱いや保管には注意が必要。
- ・ 傷のないエメラルドは皆無に等しいといわれ、傷は天然石であることを証明するものである。
- ・ 現在はコロンビア産が世界中のエメラルドの80%を占め、質、量共に世界第一位を誇っている。



(5) カルセドニー (Chalcedony／玉髓・産地／世界各地)

- ・ カルセドニーの硬度は6.5～7。水晶と同様石英鉱物に属す。カルセドニーはブルーカルセドニー（淡青色・青色）、カーネリアン（赤色）、サード（黄色・褐赤色）、クリソプレーズ（黄緑色）、ブラックオニキス、サードオニキス、グリーンアゲード、モスアゲードなどがある。

[淡色で半透明のもの]

① ブルーカルセドニー

産出量が少ないため天然素材を生かし宝石用として使う。

② クリソプレーズ

カルセドニーの中で最も珍重され、天然石は稀少価値が高くギリ

シャ、ローマ時代から装飾用として使われた。

クリソプレーズの黄緑色は酸化ニッケルによるもので明度の高い青リンゴ色（アップルグリーン）から暗色のものまである。

[縞や模様があるもの]

- 一般的に縞や模様のあるカルセドニーをアゲートと呼んでいる。半透明で内包されている鉱物によって色が異なる。二酸化マンガンを含むブラックオニキス（黒もしくは黒地白の縞目模様）、モスアゲート（緑の草木状の模様）、鉄鉱石を含むサードオニキス（赤と白の縞目模様）、グリーンアゲート（緑色の縞目模様）、レースアゲートなどがあり、模様や外観のイメージによって名称がつけられる。主に火山岩の空洞内で採取できる。

① ブラックオニキス

天然石は少なくカルセドニーを黒く着色したものが多い。

② モスアゲート

半透明で樹枝状の結晶鉱物。内包物色によってモスカートンと呼ばれるものもある。

③ サードオニキス

8月の誕生石で夫婦の幸福・高潔を象徴する。語源はギリシャ語の「指の爪」、古代ローマ時代にはカメオに細工して使い、めのうの中でも長い歴史を持っている。

(6) コーラル (Coral／珊瑚・産地／熱帯、亜熱帯の海洋、地中海、日本－高知、長崎他)

- 3月の誕生石で聡明、沈着を象徴する。語源は英語で「サンゴ虫」を意味する。
- 仏教の経文に記してある「七宝」の1つがサンゴと言われ、日本では古くから馴染みのある宝石として数珠などに使われていた。
- コーラルの硬度は3.5。サンゴ虫が海底の岩肌に石灰質を分泌しながら樹枝を形成したもので、死んだ後に残された樹枝が宝石の「コーラル」となる。サンゴ虫は、八放サンゴと六放サンゴに分類され、一般にコーラルと呼ばれているのは八放サンゴの中の本サンゴである。本サンゴは水深100～1000mの岩礁に生息。年間4mm成長し寿命は約400～500年と言われる。
- 良質のコーラルは地中海産が有名。イタリアで加工されるため「コーラルの本場」とされているが2000年来の採取の結果、採取量が減少し、現在では日本からの輸入に頼っている。
- コーラルは柔らかい素材で傷つきやすく酸や脂などに冒されやすい。しかし、表面が摩滅し光沢がなくなった場合には磨き直しがきく、という利点もある。
- コーラルの色は赤、ピンク、白、黒などがあり、色によって名称がつけられ分類されている。

① オックスブラッドコーラル



「血牛」とも呼ばれ、コーラルの中でも貴重な品種で濃い黒味のある赤色をしている。

② ピンクコーラル

赤とピンクの中間色。

③ エンジェルスキンカラーコーラル

白とピンクの中間色でボケと呼び、採取量が少なく、コーラルの中でも珍重されている。

④ ホワイトコーラル

白色の色合いは象牙とは違った美しさがあり、コーラルの中でも最も安価である。白色に赤の縞や、赤の斑のものはスカッチと呼ばれる。

⑤ ブラックコーラル

黒～黒褐色で主にハワイ近海で採取される。本サンゴと異なる六放サンゴに属し、水深20～60mの岩礁に生息し、年間の成長は6cmで、寿命が30～60年と言われる。

(7) ラピスラズリ (Lapis-lazuli／青金石、瑠璃・産地／アフガニスタン、南アメリカ他)

- ・ 12月の誕生石のひとつで成功、繁栄を象徴する。語源はラテン語で、ラピスは「石」、ラズリは「青色」を意味する。ラピスラズリの歴史は古くBC3000年頃から古代文明の発祥地であるメソポタミア、エジプト、インダスにおいて王族や女性の装飾品に多く使用されている。古今東西にわたり珍重、愛され、イスラム教国では回教寺院のモザイク壁に、また東洋ではコーラル同様七宝の一つとして「瑠璃」の名で親しまれていた。
- ・ ラピスラズリの硬度は5.5。数種の鉱物の集合体で中心になる4つの鉱物（藍方石、ソーダ石、ゆう方石、天藍石）が放つ美しいブルーの色合いが命であるが、黄鉄鉱（パイライト）を含有しているものは黄金色に輝いている。
- ・ ラピスラズリの色は緑色を帯びた青色から濃い青紫色と幅があり、濃厚な紺青色が最高色と言われる。

(8) アメシスト (Amethyst／紫水晶・産地／ブラジル、南アフリカ、ソ連)

- ・ 2月の誕生石で誠実、心の平和を象徴する。語源はギリシャ語で「悪

酔いをしない」の意味で、ギリシャ神話に酒神バックスと乙女アメリストの物語としてその由来が記されている。

- ・ アメシストの硬度は7。透明な石英質の宝石を水晶と総称しロッククリスタル（無色）アメシスト（紫）シトリン（黄）が一般的に知られている。アメシストは水晶の中で最も人気が高い。
- ・ アメシストの色は無色に近い藤色から紫色まで幅が広いが、変色の原因は現在でも分かっていない。
- ・ ゴールドとマッチしやすく金細工でセットすることが多い。

(9) パール（Pearl／真珠・産地／日本、中国、ビルマ）

- ・ 6月の誕生石のひとつで愛情、健康を象徴する。古代から「月の涙」として珍重され、クレオパトラが真珠を溶かして飲んだエピソードにもあるように「薬」としての効果も期待されていた。古代から中世にかけてはペルシャ湾、紅海、アドリア海で採取、十字軍の遠征と共にヨーロッパに伝えられ、宝飾品に用いられた。明治38年、日本は世界に先駆けてパールの養殖に成功し、現在では世界のパールの90%を産出している。
- ・ パールの硬度は2.5～4。核と真珠層から成り、主成分は貝殻と同じ炭酸カルシウムで、全体の90%を占める。そのため、熱や酸に弱く、取り扱いにも注意が必要である。
- ・ 天然パールと養殖パールの違いは貝内にはいる核（貝殻、砂、寄生虫など）が偶然か、人為的かによる。いずれも組成は全く同じで美しいパールとして採取されるのは、核の挿入から3～4年後になる。
- ・ パールは貝の種類や環境によって形や色が異なる。形は真円（アコヤ貝）、半円（マベ貝）、変形（池蝶貝）などで、カラーはピンク系が稀少価値が高く、イエロー系は多量に採取できる。
- ・ 養殖真珠は真珠を生む母貝の種類によって名称が付けられる。

① アコヤ真珠

アコヤ貝を母貝とするパール。珠径は平均すると5～7mmで8mm以上は大真珠といい価格も高い。

② 白蝶真珠

白蝶貝を母貝とするパール。白蝶貝は南洋諸島近海に生息する最大の真珠貝で珠径10～13mmの真円真珠が採れる。○○○では白蝶貝も素材として使用している。



③ 黒蝶真珠

黒蝶貝を母貝とするパール。色は淡黒色の珠が最も高品質だといわれシルバーから黒まである。○○○では黒蝶貝も白蝶貝同様素材として使用している。

④ マベ真珠

マベ貝を母貝とする半円形のパール。マベ貝は比較的大きな貝で、母貝に半球上に形成されたパールを加工して使用する。

⑤ 淡水真珠

池蝶貝を母貝とするパール。核を挿入しないため米粒状、スティック状、クロスなど不定型なパールになり母貝1個で40～50個の小さな真珠をつくることもできる。

・ 良いパールの条件

① 真珠層が厚いもの

② 形が真円に近いもの

③ サイズがより大きなもの。(一般に中珠は直径6～7mm、大珠は8mm以上を表す)

④ 傷がないもの

⑤ 珠の奥底から輝き、光沢があるもの

※ ネックレスなど連になっているものは、各パールのサイズ、色の均一性があるものがよい。

● ゴールドとプラチナ

(1) ゴールド (Gold/金・産地/南アフリカ、ソ連、カナダ)

- ・ 純度99.9%以上の金を「純金」と呼びK24 (24金) で表す。他の金属とコンポ (割金) して使われることが多く、「金合金」としてK22～K9までの金位でコンポの割合が表示される。
- ・ K24は軟らかく、宝飾品の細工にはK18、K14を使用することが多い。
- ・ 般に日本ではK18、アメリカではK14が主流といわれている。○○○の商品の地金は主にK18である。
- ・ ゴールドの色はコンポの種類と量によって異なる。
 - ①イエローゴールド (黄色) …銀、銅がコンポされている。銀が多いと青く、銅が多いと赤味を帯びる。
 - ②ピンクゴールド (ピンク色) …パラジウム、ニッケル、銀、銅がコンポされている。
 - ③ホワイトゴールド (白色) …パラジウム、ニッケルがコンポされている。

(2) プラチナ (Platinum/白金・産地/南アフリカ、ソ連、カナダ)

- ・ プラチナはPtと表示され、純度は1000分率を用いて、プラチナ含有量の割合で表示される。コンポするものが、プラチナグループ(ルチニウム、イリチニウム、ローチニウム、パラチニウムなど)

に属する場合は「プラチナ100%」といふことができる。プラチナは、ゴールドよりも腐食しにくく、稀少性があり高価である。

<コンポ例>

表示 Pt 950……プラチナ95%+ルチウム50%

Pt 900……プラチナ90%+イリチウム100%

その他、用途により、ローチウム、パラチウムなどを合わせる。

- ・ 最高純度 Pt 1000から Pt 950、900、850の4品位でイギリスでは Pt 950以上、日本では Pt 850以上をプラチナとしている。
- ・ ホワイトゴールド（金合金）と混同しやすいがプラチナは天然の白色で比重が重いのが特長。

ゴールドの純度表

ゴールド	
純度 (%)	金位
100.0	K 24(純金)
91.7	K 22
83.5	K 20
75.0	K 18
62.5	K 15
58.5	K 14
50.0	K 12
41.7	K 10
37.5	K 9

(4) ゴールドとプラチナの取り扱いアドバイス

- ・ 香水などは必ず宝飾品の着用前につける。
- ・ 使用後は速やかに、柔らかい布またはセーム皮で汚れを拭きとる。
- ・ 特に汚れがひどい時は、中性洗剤を1滴垂らした熱湯の中に5分程いれ、歯ブラシで汚れをたたくようにしてとる。再び熱湯に戻し、スプーン約1杯の粉石鹼を入れ沸騰させる。洗浄した後新しい熱湯でよく洗い、自然乾燥させる。
- ・ 日常の使用では塩素系の洗剤などに注意する。
- ・ ダイヤモンド以外の宝石をあしらったジュウリーの洗浄は購入店に持参する。